

3 世界史における授業改善の方策

本研究の実践では、「世界史A」及び「世界史B」において、資料を基に、その内容をまとめたり、事象の背景や原因を考察したり、それらの結果や自分の考えを表現したりする言語活動を取り入れる指導の工夫に取り組んだ。各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として有効であったことが分かる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

(1) 資料を活用する活動を取り入れる

各事例のところで紹介したように、資料を活用する学習を行うことで、生徒の学習内容に対する理解が深まったり、関心や意欲が高まったりするという成果が出た。**事例1**では、年表を作成させたり、地図と関連付けながら事象の背景を考察したりする活動を行った。こうした活動を行うことで、生徒が同時代の世界の諸地域を比較する視点をもつことができた。**事例2**と**事例3**では、その時代の資料を提示して、よみとく作業を行わせた。生徒たちは、グループで話し合ったり、これまでの学習で得た知識との関連付けを図ったりしながら、資料の内容を熱心に読み取っていた。こうした効果を高めるためには、生徒に何を読み取らせたいのかという目的を明確にすることや、生徒がこれまでの学習で得ている知識との関連を図ることが重要である。

(2) グループ活動を取り入れる

各事例ではグループ活動を取り入れた。グループの中で話し合ったり、グループの意見を発表したりすることで、それぞれの生徒が様々な考え方を知ることができるという効果があった。このことは、事象に対する多面的・多角的な見方を促すためにも重要である。また、資料をよみといたり、関連付けを図ったりする活動は、グループ内での協力があってより深まった。例えば、**事例3**のように風刺画をよみとき、風刺されている社会問題を考察する活動では、グループ内で様々な意見交換が行われていた。ある班では、一人の生徒の仮説を全員が集中して聞いている場面も見られた。このように、グループ活動は生徒の多面的・多角的な見方を実現したり、協力して課題を解決したりする上で効果がある。

グループ活動を取入れる際には、個々の生徒の考えが尊重されるよう工夫することが必要である。グループ内で個々の生徒の考えを発表する際にも、それについて検討する場面を取り入れたたり、グループ内での意見交換や他のグループの発表を聞いて、自分の意見を変える際にも、変える理由を書かせるなど、生徒が他の意見に流されるのではなく、自分の意見と他の意見とを比較した上で、納得して意見を変えることができるような工夫が必要である。

(3) 仮説を立てる活動を取り入れる

事例1ではペストがヨーロッパに伝わった原因や背景について、**事例2**ではドレークの航海の目的について仮説を立てさせた。また、**事例3**では19世紀のロンドンの労働者の生活環境が悪化した原因を考えさせた。このように、グループとしての意見をまとめる活動を取り入れたことにより、生徒の関心や意欲は高まった。**事例2**の場合のように、仮説を立てるために、生徒たちが教科書や資料集、ノートを参考にする場面が見られるなど、生徒の主体的な授業への参加が実現した。

今回の実践のように、資料を活用した活動を行う際には、単にその内容を読み取ったり、まとめたりするのではなく、仮説を立てることを目的とした活動を取入れることが必要である。その

ことで、資料をよみとく視点が得られたり、友人との意見交換が活発になったりする効果が得られたりすることができる。

(4) 学習内容を文章にまとめる活動を取入れる

今回紹介した事例では、学習活動の最後に、それまでの学習で得た情報を踏まえて、各自の考えを文章に表現する活動を行った。自分の言葉で表現することによって、学習した内容が定着すると考えたためである。各事例のところで紹介したように、多くの生徒が、一連の学習活動で得られた情報を踏まえて、事象について多面的・多角的な視点から文章を書くことができていた。

それぞれの生徒の事象に対する視野をさらに広げるためには、生徒たちが書いた文章を紹介する時間を設定する必要がある。他のグループの発表を聞いて、事象に対して一層多面的な見方で文章を書くことができるようになった生徒がどの事例にも見られた。このことから、学習内容のまとめとして生徒が書いた文章を紹介し、教師がその良い点とその理由や学習のポイントとの関連を踏まえたコメントを添えることで、それぞれの生徒が自身の考えと関連付けながら学習のポイントを理解したり、事象に対して新たな興味や関心をもって主体的な学習を始めたりすることができるのではないだろうか。

◇平成23年度高等学校における教科指導の充実 研究協力委員・研究委員（地理歴史科）

研究協力委員

栃木県立小山高等学校	教諭	早川 正人
栃木県立栃木翔南高等学校	教諭	手塚 博子
栃木県立馬頭高等学校	教諭	岩田 大輔

研究委員

栃木県総合教育センター 研修部 指導主事 豊住 隆行

高等学校における教科指導の充実
地 理 歴 史 科
資料を活用した学習を取り入れた世界史の指導

発 行 平成24年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>